永和・小阪・八戸ノ里周辺

帝キネが愛した東大阪（まち）マップ

大正5年（1916）、小阪駅の北西に小阪撮影所が開設、閉鎖された後、昭和3年（1928）に帝キネ長瀬撮影所が開設され、東大阪市内のあちらこちらでロケが行われ、俳優・映画スタッフと地域交流が盛んであったこの地。残念ながら東洋のハリウッドといわれていた長瀬撮影所は、昭和5年（1930）の火災で焼失しましたが多くの人たちの思い出の中に残っていました。
司馬遼太郎記念館・田辺聖子文学館・谷岡記念館・宮本順三記念館など多くの文化施設があるこの地域　ロケ地であった社寺や街並み　歩いてみてはいかがでしょう。

写真提供：サンポード事業グループ

印　　刷／第3版　2020年3月東大阪観光協会
編集・発行／帝キネ映画東大阪上映実行委員会
東大阪コミュニティニュースの会
再編集・連絡先／東大阪観光協会

帝国キネマ撮影所と東大阪

大正5年（1916）に「天活」(天然色活動写真（株））によって小阪駅の北西に小阪撮影所が建設され、同9年（1920）「帝キネ」(帝国キネマ演芸（株））が買収。その狭さなどの理由で、昭和3年に長瀬に移転され、東洋のハリウッドといわれた長瀬撮影所が開設されました。

長瀬川周辺や金岡公園、長栄寺、鴨高田神社、小坂神社、彌栄神社、中小阪の旧村、小阪座、花園の津原神社周辺など市内のあちらこちらがロケーション地となっていました。

小阪撮影所近くの錦水湯は当時、俳優やスタッフがよく利用していたそうです。近隣には映画関係者の寄宿舎や自宅がありました。地元の人たちは、ロケを見に行くことを楽しみにしていました。エキストラとして参加した人もいました。撮影所が普段の生活の中にありました。

不運にも昭和5年（1930）9月30日、火災により焼失。製作陣のほとんどは京都太秦に移りましたが、一部の人たちは大阪の地から離れたくないという思いで「アシヤ映画」の名で独立プロを興し瓢箪山に撮影所を建設、数本の映画を製作しました。

①帝国キネマ小阪撮影所

総面積570坪、建物44坪、舞台20坪程度のもので、無声映画、時代劇が主で「市川百々之助」「霧島直子」などの人気スターが活躍しました。大正12年（1923）度には60作品余製作されました。跡地は住宅地化され、当時の面影は残っていません。

②帝国キネマ長瀬撮影所

帝国キネマ映画　撮影所機関誌第2巻「生駒連峰が、なだらかな曲線を東北に張っている。小松の白い地面を美しく抜き模様にする。空氣はよし、田園的な軽快?名香気が時には、あまねく漂ふ廣潤な土地…。さらばこそ、此處長瀬の地こそ凡ゆる方面からして見て、極めて、私達の希望條件に合致したものがあったのです。」と記されています。

昭和3年、敷地面積約1万坪、かまぼこ型の200坪のステージ2棟のほかその他の設備も整っており、当時東洋一の規模を誇り、日本映画の近代化の基礎となった撮影所で「東洋のハリウッド」といわれていました。昭和5年キネマ旬報優秀映画第1位に輝いた「何が彼女をそうさせたか」はトーキー初期の頃の作品です。

敷地には樟蔭学園の樟徳館(国の登録文化財)が建てられています。

長瀬川（旧大和川）

長瀬川は現在水路状の川となっていますが、以前は柏原市の安堂付近から河内平野を数本に分かれて北流していた旧大和川の主流で、広い所では、川幅が約700ﾒｰﾄﾙもある大河でした。川は天井川といって、上流から流されてきた土砂が堆積して、川底が両岸の土地より高くなっていて、そのため大雨が降るたびに洪水を繰り返していました。そこで江戸時代中頃の宝永元年(1704)に安堂付近から堺方面を経て大阪湾に流れ込むように付け替え工事が行われ、狭い用水路だけを残し、周辺の川床を新田として開発しました。

当時の地形の面影は今でも川の西側付近に段差のついた地形を見かけます。彌栄神社や小坂神社の西側の道も昔の川跡です。

帝キネ小阪撮影所や長瀬撮影所もこの旧大和川の跡地に建てられていました。ロケ地によく使われていた長瀬川沿いの松並木は、大正時代に植えられ第二次世界大戦の時、燃料としての松根油をとるため伐採されました。

現在の長瀬川には遊歩道が設けられ、市民の憩いの場となっています。桜並木をはじめ季節ごとに楽しめます。川には、カルガモ、白サギ、ゴイサギなどの水鳥、コイやフナ、時期によっては、ボラの稚魚の大群も見ることができます。1705年（宝永2年）に供用が開始された長瀬川と玉串川の2つの水路大和川分水築留掛かりが2018年（平成30年）8月13日に世界かんがい施設遺産に登録されました。

③司馬遼太郎記念館

司馬遼太郎さんの自宅と安藤忠雄さん設計の建物で構成された記念館。来館者は、雑木林ふうの庭を通って、数々の作品を執筆した書斎を窓越しに見ることができます。この記念館は「見る」、というより「感じる」「考える」記念館という位置づけで、その代表が高さ11メートル、3層吹き抜けの大書架です。約2万冊の蔵書の世界が広がり、まさに、司馬遼太郎さんの精神が感じられる空間といえます。

地下1階の展示室は、作品別、テーマ別の企画展を年2回開催し、ホールでは司馬遼太郎さんに関する映像を常時上映しています。このほか講演会やコンサートなどが開かれています。

開館時間／10：00～17：00（入館受付は16：30まで）
休 館 日／月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）
9/1～9/10　12/28～1/4
入 館 料／大人500円、高・中学生300円、小学生200円
ＴＥＬ／06-6726-3860

④宮本順三記念館　豆玩舎（おまけや）ＺＵＮＺＯ（ズンゾ）

グリコのおもちゃデザイナー・洋画家として活躍した宮本順三さんは、大正4年（1915）大阪に生まれ、10歳のときに小阪に移り生涯を過ごしました。

館には宮本さんが幼年期から集めた日本の郷土玩具と小さなおもちゃの数々、1934年より海外約80ケ国を旅して集めた人形玩具・仮面などの民族文化資料、絵画作品を展示しています。

また、街人(まちんど)講座やおもちゃ作りを通じて、人びとの出会いと交流の場でありたいと願っています。

子どもから大人まで、ＺＵＮＺＯの夢の世界をお楽しみください。

開館時間／10：00～17：00（入館は16:30まで）
休 館 日／月曜、年末年始・お盆期間
臨時休館有
入 館 料／大人500円、高大生300円、
こども200円
ＴＥＬ／06-6725-2545
http://www17.plala.or.jp/omakeya/

⑤谷岡記念館（大阪商業大学内）

大阪商業大学の創立者にちなんで命名された谷岡記念館は、大阪商業大学の前身、大阪城東商業学校時代の本館を、学園創立50周年記念事業の一環として修復したもので、平成12年（2000）東大阪市では初めて、国の登録有形文化財となりました。館内には学園資料室をはじめ、江戸時代に大阪で使われた商業に関する道具（そろばん・千両箱・財布・天秤・看板・すずり箱等）や江戸時代の大阪に関する古文書や絵図などを保管・展示している商業史資料室と河内の綿と稲作をテーマに構成された郷土史料室をもつ商業史博物館、大学レベルとして日本初の余暇産業の専門的研究機関のアミューズメント産業研究所、河内の郷土文化サークルセンター等が設置されており、研究・教育施設として使用されるとともに、一般にも広く公開されています。

・商業史博物館　・アミューズメント産業研究所
開館時間／10：00～16：30
休 館 日／日曜日・祝日・創立記念日（2月15日）・年末年始・
大学の休暇中（但し、休館日はあらかじめ掲示
します）
入 館 料／無料
資料閲覧／可能（但し、古文書資料等については、
原則として帯出、写真撮影、複写不可）

問合せ先／大阪商業大学
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4丁目1番10号
・商業史博物館
ＴＥＬ／06-6785-6139　ＦＡＸ／06-6785-6237
・アミューズメント産業研究所
ＴＥＬ／06-6618-4068　ＦＡＸ／06-6618-4069

⑥大阪商業大学図書館

大阪商業大学図書館は社会科学分野を中心に約44万冊の図書資料を収集し、教育・研究活動の支援を行っています。また、貴重書として古典派経済学（A.スミス、T.R.マルサス、D.リカードウ&J.S.ミルなど）の初版本も所蔵しています。
開館時間／平日9：00～20：00
休 館 日／日曜日・祝日・創立記念日（2月15日）・
年末年始・大学の休暇中

一般の方もご利用できます。手続き方法につきましてはホームページに詳しく掲載しておりますのでご覧ください。
ＴＥＬ／06-6781-5280
ＦＡＸ／06-6781-0089
http://www.lib.daishodai.ac.jp/

⑦田辺聖子文学館

日本を代表する女流作家であり、文化勲章受章者である田辺聖子さんの世界を紹介する文学館です。母校である大阪樟蔭女子大学（旧樟蔭女子専門学校）が、学園創立90周年を記念して平成19年に開設しました。この文学館では、田辺さんの文学の世界に関する紹介だけでなく、その半生や夢の世界、温かい人間性などの田辺ワールドに触れていただけるような展示が行なわれています。

みどころは、田辺氏の作品（約450冊）を並べた文学ウォールや実際の書斎を再現したコーナーなどがあり、訪れた人がそれぞれに楽しんでいただけるように工夫されています。平成20年春には第２期工事が行なわれ、映像資料コーナーなども増設されています。

開館時間／平日9:00～17:00　土曜9:00～16:00
休 館 日／日曜・祝日、大学の休業日（年末年始・GW期間・
お盆期間中など）
入 場 料／無料
ＴＥＬ／直通06-7506-9334
http://bungakukan.osaka-shoin.ac.jp/

⑧樟徳館

この建物は、昭和12年頃に樟蔭学園の創立者である森平蔵氏の私邸として建築されました。此処は、元々は帝国キネマ長瀬撮影所が建っていた場所ですが、昭和５年に火災により焼失した後、その跡地を森氏が入手したものです。

大阪有数の木材業者でもあった森氏は、日本各地から銘木を集め、最高の材料と技術を駆使して私邸を建築しており、木に対するこだわりが随所に見られる建物となっています。外観から見る限りは全くの和風建築ですが、内部には和洋折衷の意匠が混在している点が特徴的で、平成12年（2000）には「造形の規範となり、再現が容易でないもの」として登録有形文化財に登録されました。現在は大阪樟蔭女子大学の実習の場として利用されています。
※一般公開は行なっておりません。